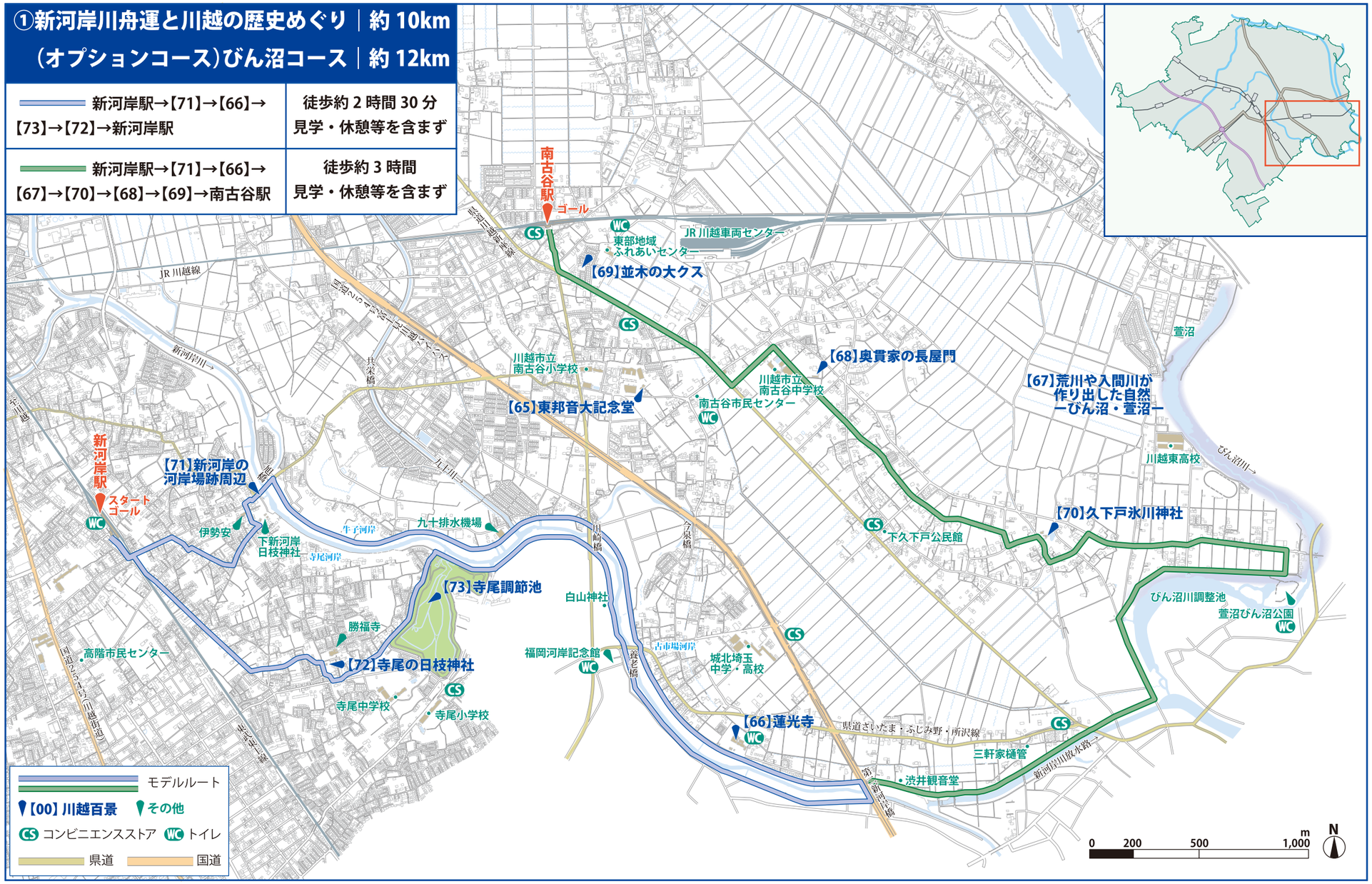
①新河岸川舟運と川越の歴史めぐり｜約 10km
（オプションコース）びん沼コース｜約 12km

新河岸駅→【71】→【66】→【73】→【72】→新河岸駅	徒歩約 2 時間 30 分 見学・休憩等を含まず
新河岸駅→【71】→【66】→【67】→【70】→【68】→【69】→南古谷駅	徒歩約 3 時間 見学・休憩等を含まず



【69】並木の大クス

並木の大クスは、幹回り 6 メートル、高さ 30 メートル、遠方からはまるで小山のように見える巨樹です。昭和 9 年（1934）に県の天然記念物に指定されました。

【65】東邦音楽大学記念堂

東邦音楽大学は、昭和 9 年（1934）に東京高等音楽院（現国立音楽大学の分教場として始まり、昭和 13 年（1938）に東邦音楽学校として発足しました。川越キャンパスは昭和 38 年（1963）の開設です。木造 2 階建ての記念堂は、昭和 13 年に文京区大塚に教員室や教室として建築されたもので、昭和 43 年（1938）に川越に移築されました。

【68】奥貫家の長屋門

久下戸（くげど）村は荒川右岸の低地に位置し、奥貫家は代々名主を務めた家です。構堀を持つ屋敷地は、約 80m 四方、長屋門もその一角にあり、間口 15 間という川越市内最大の長屋門です。五代目友山は、寛保 2 年（1742）に発生した大水の際、私財を投じて村人を救ったことで知られます。

【70】久下戸氷川神社

久下戸村の鎮守で、創建は明らかではありませんが、大宮氷川神社から勧請したと伝わります。本殿は朱塗りの一間社流造で 17 世紀の建築と推定されます。境内には富士塚があり、寛保 2 年（1742）の大水害では、その頂まで水が到達したと伝わります。また、この水害を伝えるものとして、拝殿の前には宝暦 3 年（1753）に菅間村と共同で奉納した燈篭があります。

【67】荒川や入間川が作り出した自然 ―びん沼、萱沼、はいだわら

かつて大きく蛇行していた荒川や入間川の流路が、細長い沼となって残りました。

びん沼川は荒川の改修以前の流路で、さいたま市との境になっています。萱沼には、萱沼びん沼公園が整備されるとともに、釣りのメッカとなっています。はいだわらは、中老袋から下老袋にかけての入間川の古い流路です。その昔、肥料として使われていた灰を運搬していた船が転覆したことからこの名がついたと伝わります。

【73】寺尾調節池

新河岸川舟運は、大正時代から始まった河川改修、そして、昭和 6 年（1931）の通船停止令をもって終わりを告げます。しかし、その後も流域では水害が続きました。

［床上・床下浸水被害］
昭和 57 年（1982）約 9,200 戸
平成　3 年（1991）約 4,000 戸
平成 10 年（1998）約 3,800 戸

そこで設けられたのが治水対策施設の寺尾調節池です。対岸の九十排水機場とともに平成 14 年（2002）に完成、これにより水害が減りました。

今では、自然観察や野鳥観察の場としての利用はもちろん、堤防道路で散歩やジョギング、ウォーキングを楽しむ市民も多く、一年を通じて親しめる空間となりました。

計画調節量 36 万㎥、約 13ha の寺尾調節池には、現在、数十種類の生物と 90 種に迫る野鳥、約 100 種類の植物が生息し、広大で豊かな「自然の宝庫」となっています。

地元の小学生、中学生の学習の場となっているほか、地域の有志によって「調節池を愛する会」が結成され、美化・生態系保護活動に取り組んでいます。

写真提供：調節池を愛する会代表 加藤和徳氏

【66】蓮光寺（れんこうじ）

曹洞宗鷲嶽山蓮光寺は、室町時代の永正年間（1504 ～ 20）の創建です。徳川家康が慶長 16 年（1611）鷹狩りの折に立ち寄り、お茶を供されたことから御朱印地七石を下付しました。総門（川越市指定有形文化財）は朱塗りの一間高麗門で、かつては新河岸川に向かって建っていたものを、河川改修に伴い現在の位置に移しました。

河川改修によって整備された新河岸川堤防上には桜が並木となり、市民の花見の場ともなっています。